

ポスター | 1-20 その他

ポスター

カテーテル治療④

座長:田中 敏克(兵庫県立こども病院)

Sat. Jul 18, 2015 11:20 AM - 11:50 AM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

III-P-026~III-P-030

所属正式名称: 田中敏克(兵庫県立こども病院 循環器科)

[III-P-026]肺動脈閉鎖、BT shunt術後のshunt閉塞に対し、冠動脈用バルーンを使用した再開通術を行い段階的なカテーテル治療でGlenn手術に到達した1例

○山崎 優貴, 都築 慶光, 長田 洋資, 中野 茉莉恵, 桜井 研三, 升森 智香子, 水野 将徳, 有馬 正貴, 後藤 建次郎, 麻生 健太郎 (聖マリアンナ医科大学病院 小児科)

Keywords:肺動脈閉鎖, シャント閉塞, 冠動脈用バルーン

【背景】チアノーゼ性心疾患の体肺動脈 shunt閉塞は重篤な状態に陥りため迅速な対応が要求される。今回、我々は BT-shunt術後の shunt閉塞に対し冠動脈用バルーンを使用した再開通術を行い、以後段階的なカテーテル治療を施行し Glenn手術に到達した症例を経験した。文献的な考察を含め報告する。【症例】3か月、女児。診断は Asplenia, SRV, CAVC, PA, PDA。日齢44 体重3240gで modified BT-shunt(3.5mm)施行。日齢48高肺血流により全身状態が悪化したため shuntに対し clippingを施行した。月齢3 SpO₂ 47%まで低下。心エコーで shunt flow確認できず shunt閉塞と判断し緊急カテーテル検査を施行した。造影で shunt閉塞を確認した。shuntをワイヤーが通過したのでそのまま Coyote ES monorail(3.0×20)を使用しバルーン拡張術を施行した。拡張後の造影では shunt血管のくびれを残していたが再開通が確認できたため終了した。4ヶ月 BW4660g 心臓カテーテル検査施行し、shunt血管狭窄に対し Integrity(3.5×12×14)を用いて stent留置術を行った。8ヶ月 心臓カテーテル検査施行。stent狭窄を確認したため Sterling MONORAIL(3.5×20)でバルーン拡張術施行。SpO₂は術前80%から 87%に改善した。11ヶ月 Glenn手術を施行。術後経過は良好である。【考察】BT shunt閉塞症例に対し、段階的なカテーテル治療を行い、Glenn手術に到達した症例を経験した。BT-shunt閉塞に対して冠動脈用バルーンを使用した再開通術を行い段階的なカテーテル治療で Glenn手術に到達した1例を経験した。BT shunt閉塞に対するバルーン拡張術が無効であった症例や緊急手術を要した症例の報告もあるが、早期に介入すればカテーテル治療で再開通できることもあり治療の optionとして考慮されるべきである。